

マラウイの食事は「シマ」と呼ばれるトウモロコシの粉をお湯で溶きながら煮込んで、餅状にした主食と、トマトをベースにして豆や肉、又は魚を煮込んだ「デオ」と呼ばれるおかずを食します。お米やパンもありませんが、高価なので一般の人々はありません。蛋白源としては肉や魚、卵は高価なので、ねずみやグンビ(羽蟻類)を捕獲して食しています。

果物はバナナ、マンゴー、パイナップルなどがあり、嗜好品としては、マシ(砂糖のはいつてないドーナツ)やミルクティー、コココーラ、ファンタ、などがあります。どんな田舎に行っても、この清涼飲料水が普及しているのには驚きました。

ビールやお酒は高価なので、自家製でトウモロコシから作って愛飲しています。(発酵しているので、酸味が強いです。)

衣料品は援助物資で各国から寄せ集められた物が、貧困層に無料で届けられているのかと思いきや、商売として売られていました。

金銭を手にした者が、衣服や毛布を購入できる。だから自給自足の生活の人々は新しい衣服(中古であっても)を手にする事ができず、ビリビリに破れたり擦り切れた服を着続けています。

教育はプライマリスクール(日本の小学校1年生)〜中学校2年にあたる)は無料ですが、制服が用意できない

くて停学となったり、家の手伝いや労働を強いられたりして学びたくても学べない子が沢山います。また教科書もほとんどの子は手にすることができず、先生が板書した物をノートに写します。一方、ノートやペンがない子は必死で暗記しようとしています。彼らの暗記力はかなりの物ですが、やがて能力の差が開き、進学できずに辞めていく子も少なくありません。

セカンダリスクール(日本の中学3年生)〜高校3年生にあたる)は有料で、経済的なゆとりのある家の子どもしか行くことができません。

学ぶ環境を整えば、優秀な人材も多く生まれるのではないかと思わずにはいられません。



◀板書したものを真剣にノートに写した生徒



▶授業を受ける生徒に熱心な生徒



▲笑顔を決やさず、明るく生きる子どもたち

このように少し説明しただけでも、マラウイは貧困というイメージを強く抱かせてしまいますが、経済的には貧困でも、親族や友達を大切に互いに助け合う心の豊かさは世界でもトップクラスだと思っています。

過去の歴史を振り返ってみても、戦争はありません。

また、難民を拒む国が多い中、国の財政が厳しく食糧困難だったとしても「我らの兄弟姉妹を見捨てられない。」と言って迎える国です。

豊かさの尺度は経済的な物だけで測るものではないと思います。

全体的な豊かさのバランスがとれた時、健全な社会が築けるのでしようが・・・。

現在、世界では多くの問題が起きています。

自然破壊、温暖化、環境汚染、貧富の格差増大、人口爆発、食糧問題、飢餓、エイズの蔓延、失業率の増加、テロ、戦争など。

自分の国は関係ないと言った考えは、結果的に自らを滅ぼすことに繋がります。なぜなら私たちは同じ地球上に住んでいるのですから。

マザーテレサの言葉に「最大の罪は無関心」というのがあります。

大きなことでなく小さなことから、自分にできる範囲で世界に貢献していきませんか？

知らない国のことを知りそこから何かを学ぶこと、自身の周りにおける資源を大切にすること、一人ひとりの力は小さくても集結すれば大きな力となり、きつと良い方向に変えていけるはずですよ。

募金などでの金銭や物資の援助も必要ですが、これらには限界や不正ルートもありますし、受け取る側の自助努力を欠いてしまう結果と成りかねないので、使い道と寄付後の追跡をしっかりと報告してくれる所を選ぶことをお勧めします。

今後一人でも多くの方が、協力隊の活動や国際協力に関心を持ってくださると光栄です。

※掲載写真はすべて国際ボランティアマガジン「クロスロード」2005年1月号より引用しています。なお、「クロスロード」は酒井さんから毎月ふるさとライブラリーへ寄贈していただいています。興味のある方はぜひご覧ください。